

政策分野	002	教育	政策項目	003	自然環境教育	施策	001	自然環境の保全・再生	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
050	国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I オオムラサキ館事業の開催回数 (単位: 回)	5	7	10	5	6	4	57%	I オオムラサキ館企画事業の実施回数	
	II オオムラサキ館の生きもの展示数 (単位: 個)	73	80	85	73	63	66	83%	II オオムラサキ館の生物(蝶、昆虫、水生生物)の展示数	
成果指標	I オオムラサキ館事業の参加者数 (単位: 人)	221	270	300	85	329	61	23%	I オオムラサキ館企画事業の参加者数	
	II オオムラサキ館来館者数 (単位: 人)	22,500	25,000	27,500	28,555	29,643	19,794	79%	II オオムラサキ館の来館者数	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	オオムラサキ館事業①虫取りの極意：15,468名(展示企画のため参加者数に加えない) ②夏の昆虫採取：25名 ③ライトトラップ：26名 ④鹿角ストラップ：10名(町民講座と共催)
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	成果指標Iのオオムラサキ館事業の参加者が少なくなっているが、場内で特別展示事業を実施したため参加者数にカウントしていないため少なくなっている。オオムラサキ館の生きもの展示数は昨年を超える数の展示を行っており、秋・冬には展示する個体も若干入れ替えを行う予定がありさらに増える見込みである。
課題・問題点	来場者に満足してもらえるように多くの生き物を飼育展示するよう工夫をしているが、飼育数を増やすことにより労力や幼虫等が食べる食草の確保などの課題があり、現在の飼育員で飼育できる適正な飼育数及び必要なエサを確保するなど飼育方法の検討が必要である。また、水槽などの備品等も破損や老朽化が進んでおり、計画的な備品購入が必要となっている。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	来館者は増加傾向であり、利用者のニーズを踏まえた事業実施を行う。リピーターが増えるように展示や事業内容の改善を検討する。 事業の参加者の割合が町外に偏っているため、町内の参加者を増やすような取り組みを検討する。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 本年度より飼育に係る専門職員の配置により、飼育ともにオオムラサキ館における事業の充実を図っているが、より効率的な運営方法について、関係団体等を含め協議・検討を進め、オオムラサキの生息環境の保全・再生に努め、より多くの来館者へ公開すること。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価結果に加え、町民の事業理解や参加を促す取り組みについて検討すること。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	①計画通りに進める 二次評価のとおり。

政策分野	002	教育	政策項目	003	自然環境教育	施策	001	自然環境の保全・再生	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
051	ハサンベツ里山づくりの町民活動を支援します。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I ハサンベツ里山づくり実施回数 (単位: 回)	5	10	10	8	10	11		110%	I ハサンベツ里山の日・市民工事等への参加者数の実施回数
	II ハサンベツでの自然体験受入れ回数 (単位: 回)	73	100	100	138	98	63		63%	II 復元した自然環境で行われた体験学習等の実施回数
成果指標	I ハサンベツ里山づくり参加者数 (単位: 名)	138	250	250	162	170	136		54%	I 指標①の参加者数
	II ハサンベツでの自然体験者数 (単位: 名)	1,755	2,500	2,500	2,525	2,492	1,326		53%	II 指標②の参加者数

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	ハサンベツ里山の日: 5回 94名 ハサンベツ河川工事: 6回 42人 自然体験の受け入れ: 63回 (うち町内30回) 1326名 (うち町内927名)
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	会員の高齢化によりハサンベツ里山の日の参加者は減少傾向にあるが、町内外の若年層の参加割合が若干ではあるが増えてきている。里山を次世代への継承するため、里山の環境整備の必要性を広く伝え、参加者増に繋げる必要がある。
課題・問題点	会員の高齢化と減少により、ハサンベツ里山計画実行委員会の年度内解散が検討されており、今後の里山保全活動に関わる町民活動の体制構築が必要である。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	<p>現在里山活動に参加している若い世代を中心に、今後の里山保全を実施する組織を検討するとともに、自然環境を保全していくことの重要性の周知や、地域おこし協力隊の入倉隊員の活動が、今年度最終年であり、現在行っているハサンベツ里山に関わる人を増やすような取組を継続的に実施できるよう検討を進めるなど、里山づくりへの協力者を増やす取組を進める。</p> <p>また、生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に向けた取組とも連携しながら、今後の里山環境の保全活動について検討を進める。</p>
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	<p>①計画通りに進める</p> <p>効果的な周知方法を検討し、ハサンベツ里山づくりに係る町民活動への参加者の拡大を、地域おこし協力隊や関係団体と連携し進めること。</p>
2次評価 (副町長)	<p>①計画通りに進める</p> <p>一次評価のとおり。</p>
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	<p>①計画通りに進める</p> <p>二次評価のとおり。</p>

政策分野	002	教育	政策項目	003	自然環境教育	施策	001	自然環境の保全・再生	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
052	人と自然との共生を推進します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8)目標値	後期(R12)目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 関係団体との打合せ (単位:回)	5	5	5	5	5	7		140%	I 計画策定等に係る会議数及び関係団体の打合せ回数
	II シンポジウムの開催 (単位:回)	0	1	1	1	1	1		100%	II 人と自然の共生に関するシンポジウムの開催数
成果指標	I ハサンバツ里山づくり参加者数 (単位:人)	138	250	250	162	134	136		54%	I 保全活動に取り組む人数の確認
	II シンポジウムの参加者数 (単位:人)	0	30	30	56	44	25		83%	II 保全活動に興味・関心のある意識向上

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	今後のハサンバツ里山の保全活動について検討を行うなど関係団体と協議を実施している。 ハサンバツ里山活動に関わる打合せ会議・総会 7回 ハサンバツ里山の日: 5回 94名 ハサンバツ河川工事: 6回 42人
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	おおむね計画通りに事業を実施できているが参加人数が見込みよりも少なくなっている。関係団体の会員の高齢化もあり自然環境の保全等に取り組む意識の向上、運動の展開に至っていない。
課題・問題点	ハサンバツ里山計画実行委員会から、現行の任意団体での保全活動はすでに限界との意見も出ており、今後の方向性を検討する必要がある。 次年度のシンポジウム開催地が栗山町であるため、開催内容の検討を行う必要がある。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	現状の課題・問題点を関係団体と協議し今後の方向性を定め、必要に応じ自然教育中長期計画の見直しを検討する。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	④改善を検討 (その他) ハサンバツ里山の保全活動については、関係団体・関係課と協議を進め、町民が主体的に自然環境の保全等に取り組む意識の向上を図るための新たな活動体制・活動内容を検討すること。
2次評価 (副町長)	④改善を検討 (その他) 一次評価結果に加え、事業意義や活動内容等に関する理解促進のための情報発信にも努めること。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	④改善を検討 (その他) 二次評価結果に加え、別事業で進めているネイチャーポジティブ (自然再興) とともに密接に関わる取り組みとして、環境生活課と連携して体制づくりを進めること。

政策分野	002	教育	政策項目	003	自然環境教育	施策	002	ふるさと自然体験教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
053	「ふるさと自然体験教育」の推進と、その拠点となる「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」の利活用を図ります。							充実	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I ふるさと自然体験教育の実施（単位：回）	112	130	130	159	170	72	55%	I ふるさと自然体験教育の実施（提供）数	
	II 施設稼働数（単位：回）	330	330	330	241	306	123	37%	II 雨煙別学校の施設稼働数	
成果指標	I ふるさと自然体験教育への参加（単位：名）	3,895	4,000	4,000	5,112	4,723	2,433	61%	I ふるさと自然体験教育の参加（体験）者数	
	II 施設利用者数（単位：名）	4,500	7,000	8,000	8,123	8,840	5,376	77%	II 雨煙別学校の利用者数	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	学校を中心としたふるさと自然教育を実施。 学校におけるふるさと自然体験教育：59回 2,123名 社会教育等におけるふるさと自然体験教育：13回 310名
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	児童生徒数が減少傾向の中で、ふるさと自然体験教育参加数は目標値の61%と半数を超える実績があり、学校でのふるさと自然体験教育の必要性が向上していると推測する。 また、施設利用者数は77%の達成率となっているが、冬季間の利用者が少ないという課題があるため、今後の推移を見る必要がある。
課題・問題点	リニューアルから15年が経過し、老朽化が進んでいることから、計画的な修繕が必要となる。 また、冬季の利用者が減少することから、冬季間のプログラムの周知の強化に加え、年間利用者の増加に向けた取組も強化する必要がある。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	子ども達に豊かな自然環境を活用した「ふるさと自然体験教育」の提供は、本町独自の取り組みであり、今後も自然環境を守るとともに、学校等と連携を図りながら事業展開を行う。 また、利用者の増加につながる積極的なPR方法を運営団体と連携しながら、町内外に向けて発信する必要がある。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める ふるさと自然体験教育の推進については、今後においても学校等と連携を図りながら事業を実施すること。 また、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスの利活用については、冬季間の利用、年間の利用の増加につながる効果的なPR方法を運営団体と連携しながら検討すること。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価のとおり。
外部評価	①計画通りに進める 栗山町政策評価委員会報告書のとおり。
最終評価 (町長)	①計画通りに進める 二次評価結果に加え、政策評価委員会（外部評価）で指摘を受けている点に対しては改善に向けて検討を進めること。